

🔍 全訳

精神の自由が求めるのは、単に——あるいはとりわけ——法的な制約の不在ではなく、むしろ多様な思考の存在である。最も成功した専制とは、力によって画一性を保証するものではなく、他の可能性への認識を取り去り、別の道が実行可能だとは想像もできないようにし、「外部」という感覚そのものを奪ってしまうものである。人を自由にするのは感情や忠誠心ではなく、熟慮された思考であり、理性に基づく思考なのである。

🔍 第1文

Freedom of the mind requires not only, or not even especially, the absence of legal constraints but the presence of alternative thoughts.

→ 精神の自由が求めるのは、単に——あるいはとりわけ——法的な制約の不在ではなく、むしろ多様な思考の存在である。

■ 解説ポイント:

- ✅ not only, or not even especially: 通常の「not only A but B」よりも強い表現。「Aだけでなく、いやむしろ特に A ですらない」。つまり「法的制約の不在」は条件として重要だが、自由の本質は「多様な思考の存在」にあることを際立たせる。
- ✅ constraints: 「制約、制限」。語源は *con-*(共に) + *stringere*(締めつける)。「一緒に締めつけるもの」→「束縛、制約」。
- ✅ the absence of ~: 「~の不在」⇔ the presence of ~: 「~の存在」
- ✅ alternative: 「別の、代替の」。語源は *alter*(他の)。「alter ego = もう一人の自分」と同源。ここでは「alternative thoughts = 別の考え、多様な思考」。

🔍 第2文

The most successful tyranny is not the one that uses force to assure uniformity but the one that removes the awareness of other possibilities, that makes it seem inconceivable that other ways are viable, that removes the sense that there is an outside.

→ 最も成功した専制とは、力によって画一性を保証するものではなく、他の可能性への認識を取り去り、別の道が実行可能だとは想像もできないようにし、「外部」という感覚そのものを奪ってしまうものである。

■ 解説ポイント:

- ✅ tyranny: 「専制、暴政」。語源はギリシャ語 *tyrannos*(僭主)。ここから *tyrant*(暴君)が生まれた。恐竜「ティラノサウルス(Tyrannosaurus)」は「暴君トカゲ」の意味。
- ✅ assure: 「保証する、確実にする」。語法:
 - assure A of B (A に B を保証する)

- assure A that SV(AにSVだと保証する)
ここでは assure uniformity=「画一性を保証する」。
- ✓ uniformity:「一様性、画一性」。
- ✓ remove the awareness of ~:「~への認識を奪う」
- ✓ inconceivable:「想像もできない」。語源は *in-*(否定) + *con-*(共に) + *capere* (つかむ)。「一緒にとらえられない」→「思い描けない」。
- ✓ viable:「実行可能な、生存可能な」
- ✓ that 節の解説(文法的機能):
- the one that uses force …:制限用法の関係詞 that。「力を使う専制」。
- the one that removes the awareness …:関係詞 that。「他の可能性への認識を奪う専制」。
- that makes it seem inconceivable …:関係詞 that。直前の the one を修飾。「別の道が実行可能だとは想像もできないようにする専制」。
- that removes the sense …:関係詞 that。直前の the one を修飾。
- that there is an outside:同格の that 節。「外部が存在するという感覚」を具体的に説明している。

🔍 第3文

It is not feelings or commitments that will render a man free, but thoughts, reasoned thoughts.

→ 人を自由にするのは感情や忠誠心ではなく、熟慮された思考であり、理性に基づく思考なのである。

■ 解説ポイント:

✓ It is not A that …, but B:「…するのは A ではなく B だ」。強調構文の一種で、not A but B を強調。

✓ feelings / commitments:感情や忠誠心。

✓ commit(動詞) の多義語的用法:

- commit a crime「罪を犯す」=悪い行為に「身を投じる」
- commit oneself to A「Aに専念する、身をささげる」
- commit A to memory「Aを記憶にとどめる」
→ 共通するコアイメージは「強く身を委ねる・縛りつける」。

✓ commitment(名詞) の意味範囲:

1. 約束・誓約(make a commitment to…=…への約束)
2. 献身・専念(her commitment to education=教育への献身)

No29

3. 拘束・しがらみ(人を縛る義務や忠誠心)

ここでは「感情や忠誠心=人を縛るしがらみ」の意味。

- ✓ render O C:第5文型。「OをCにする」。例:render a decision impossible =「決定を不可能にする」。
- O=a man、C=free(補語)。
 - ✓ reasoned thoughts:「熟慮された理性的思考」。単なる感情ではなく「理性に基づいて構築された考え」。

【3】

🔍 全訳

人間とは歴史をつくる存在であり、過去を繰り返すことも、過去を完全に切り離すこともできない。あらゆる瞬間において、彼は自らの経験に新しい出来事を付け加え、それによって以前のすべての出来事を修正してしまうのである。したがって、人間の存在のあり方を適切に象徴する単一のイメージを見つけることは困難である。もし彼の「常に開かれている未来」を考えるなら、自然なイメージは「果てしない道を、いまだ踏み入れられていない土地へと進んでいく一人の巡礼者」である。もし彼の「決して忘れ去ることのできない過去」を考えるなら、自然なイメージは「あらゆる建築様式で建てられた大きな雑踏の都市」であり、そこでは死者も生者と同じように活動的な市民なのである。両方のイメージに共通する唯一の特徴は、いずれも目的をもっているという点である。道はある方向へと続き、都市は存続し、人間の住まいとなるために建設される。動物は現在に生きるため、都市も道も持たず、それを必要とも感じない。彼らは荒野において自分の居場所をもち、せいぜい社会的な動物なら、一世代限りのキャンプを設けるだけである。しかし人間にはその両方が必要である。道に通じない都市のイメージは監獄を連想させ、また、どこからともなく始まる道のイメージは動物の踏み跡にすぎない。

🔍 第1文

Man is a history-making creature who can neither repeat his past nor leave it behind; at every moment he adds to and thereby modifies everything that had previously happened to him.

→ 人間とは歴史をつくる存在であり、過去を繰り返すことも、過去を完全に切り離すこともできない。あらゆる瞬間において、彼は自らの経験に新しい出来事を付け加え、それによって以前のすべての出来事を修正してしまう。

■ 解説ポイント:

- ✓ Man is a history-making creature …:SVC 文型。S=Man, V=is, C=a history-making creature。
- ✓ who can neither repeat his past nor leave it behind:関係詞節で creature を

修飾。「過去を繰り返すことも切り離すこともできない存在」。→ 関係詞節内は SVO 型(S= who, V=can repeat / can leave, O=his past/it)。

- ✔ ;(セミコロン):二つの独立節を結び、強い関連や対比を示す。
- ✔ at every moment:「あらゆる瞬間に」。時間的普遍性を強調。
- ✔ adds to and thereby modifies:add to(～に付け加える)と modify(修正する)の並列構造。共通の目的語は everything that had previously happened to him。
- ✔ everything that had previously happened to him:過去完了の関係詞節。過去のすべての出来事を包括。

🔍 第2文

Hence the difficulty of finding a single image which can stand as an adequate symbol for man's kind of existence.

→ したがって、人間の存在のあり方を適切に象徴する単一のイメージを見つけることは困難である。

■ 解説ポイント:

- ✔ Hence …:「したがって～」。文頭に置かれ、結果を示す。*Hence comes S.* などの倒置型でよく使われる文語的表現。ここでは「Hence + 名詞句」で主語を提示する形。
- ✔ the difficulty of finding ~:全体が主語の名詞句。
- ✔ stand as ~:「～として通用する」。
- ✔ symbol for ~:for は「～にとっての」「～を対象とする」意味。ここでは「人間の存在の象徴として」。
- ✔ adequate:「十分な、適切な」。語源は *ad-*(～へ) + *aequare*(等しい)→「釣り合っている」=「適切な」。

🔍 第3文(下線部①)

If we think of his ever-open future, then the natural image is of a single pilgrim walking along an unending road into hitherto unexplored country; if we think of his never-forgettable past, then the natural image is of a great crowded city, built in every style of architecture, in which the dead are as active citizens as the living.

→ 和訳(設問解答)

もし人間の「常に開かれている未来」を考えるなら、自然なイメージは「果てしない道を、いまだ踏み入れられていない土地へと進んでいく一人の巡礼者」である。もし人間の「決して忘れることのできない過去」を考えるなら、自然なイメージは「あらゆる建築様式で建てられた大きな雑踏の都市」であり、そこでは死者も生者と同じように活動的な市民なのである。

No29

■ 解説ポイント:

- ✓ If … then …:条件と帰結を明示する形式。類似表現に
 - *As …, so …*(…のように～)
 - *Though …, nevertheless/however/yet* ~(...にもかかわらず、それでも～)
 - *When …, then* ~(...すると、その時～)
 - ✓ a single pilgrim walking …:構文は the natural image is of [名詞句]。ここで of の目的語が a single pilgrim walking …。walking は動名詞で「歩くこと」。意味上の主語は a single pilgrim。→「一人の巡礼者が歩くこと」という解釈。文型は SVC(S=the natural image / V=is / C=of …)。
 - ✓ hitherto:「これまでに(～なかった)」。文語的副詞。「これまで探検されなかった土地」。
 - ✓ ;(セミコロン):未来のイメージと過去のイメージを並列・対比的に提示。
 - ✓ , built …:分詞構文の継続用法。「そして建てられた」。前から訳すのが自然。city を修飾。
 - ✓ , in which …:関係副詞の非制限用法。「その都市において」。先行詞 city を説明し、「死者も生者と同じように活動する市民である場所」を描写。
 - ✓ the dead / the living:the + 形容詞で「～な人々」。the dead=死者たち、the living=生者たち。
-

🔍 第4文

The only feature common to both images is that both are purposive; a road goes in a certain direction, a city is built to endure and be a home.

→ 両方のイメージに共通する唯一の特徴は、いずれも目的をもっているという点である。道はある方向へと続き、都市は存続し、人間の住まいとなるために建設される。

■ 解説ポイント:

- ✓ feature common to both images:後置修飾。「両方のイメージに共通する特徴」。文全体では SVC 構文(S=feature, V=is, C=that 節)。
 - ✓ both images:指すのは「未来の巡礼者のイメージ」と「過去の都市のイメージ」。
 - ✓ a certain direction:certain は「特定の」「明確な」。ここは SVO 構文(a road goes in a certain direction)。
 - ✓ endure:語源は en-(中へ)+durare(持続する)。「耐える、存続する」。→ SVC 構文(a city is built to endure) の一部。
 - ✓ and be a home:built to endure と並列し、「住まいとなるために」も示す。不定詞の並列構造。
 - ✓ ;(セミコロン):抽象的命題(「両者は目的をもつ」と具体例(「道と都市」)を対比的に接続。
-

🔍 第5文(下線部②)

The animals, who live in the present, have neither cities nor roads and do not miss them; they are at home in the wilderness and at most, if they are social, set up camps for a single generation.

→ 和訳(設問解答)

彼ら(=動物)は荒野において自分の居場所をもち、せいぜい社会的な動物なら、一世代限りのキャンプを設けるだけである。

■ 解説ポイント(修正版)

- ✔️ , who live in the present: 継続用法の非制限関係節。主語 animals に付帯説明「現在に生きている」。→ 名詞+非制限関係節の構造。
- ✔️ The animals: the は「種類全体」を表す用法=「動物一般」。→ 文全体の主語 (S)。
- ✔️ have neither cities nor roads and do not miss them: SVO+and+否定文。ここは 並列 SVO 構文で「都市も道も持たず、それを必要とも感じない」。
- ✔️ ;(セミコロン): 前半(SVO)と後半(SV+補語+動詞句)を対比的に接続。
- ✔️ they are at home in the wilderness: SVC 文型。C=前置詞句「荒野において適応している」。
- ✔️ and at most, if they are social, set up camps …: and 以下は SVO 構文。if 節(条件節)が挿入され、「社会的な動物ならば」という条件を補足。
- ✔️ at most: 「せいぜい、多くても」。数量・程度の上限を示す副詞句で、ここでは「最大限でもキャンプを作る程度」という制限を加えている。
- ✔️ be at home in ~: 「~に適応している」。慣用表現として SVC 型。
- ✔️ a single generation: single は「唯一の」「一代限りの」を強調。目的語 (O) の一部。

🔍 第6文

But man requires both; the image of a city with no roads leading away from it suggests a prison, the image of a road that starts from nowhere in particular, an animal trail.

→ しかし人間にはその両方が必要である。道に通じない都市のイメージは監獄を連想させ、また、どこからともなく始まる道のイメージは動物の踏み跡にすぎない。

■ 解説ポイント:

- ✔️ both: 前文の「city(過去)」と「road(未来)」の両方を指す。→ 主節 man requires both は SVO 型。
- ✔️ a city with no roads leading away from it: with は付帯状況構文ではなく前置詞句として city を直接修飾。「外へ通じる道のない都市」という意味。→ 名詞句内の修飾構造。
- ✔️ suggests a prison: 動詞 suggests の目的語は a prison。主語は the image of a

No29

city。→ 構文は S(the image)+V(suggests)+O(a prison)=SVO 型。

✓ from it:it=the city。「都市から」。→ 前置詞句による補語。

✓ starts from nowhere in particular:「特定の場所から始まらない」。in particular=「特に」。→ 関係詞節内の SV(that starts)+副詞句。

✓ an animal trail:動物の踏み跡。ここは動詞 suggests が省略された 平行構文(SVO 型の省略)。

- She likes tea, and he coffee.(=he likes coffee.)
→ 彼女は紅茶が好きで、彼はコーヒーが好きだ。
- He went to Paris, and she to Rome.(=she went to Rome.)
→ 彼はパリに行き、彼女はローマに行った。
- The professor explained the theory in great detail, and the students, though tired and restless, listened with utmost attention.(=the students listened with utmost attention.)
→ 教授は理論を詳しく説明し、学生たちは疲れて落ち着きがなかったが、最大限の注意を払って聞いた。